

5. 学習支援を終えるにあたって

とうとう支援の最後の日がやって来ました。この10回で児童生徒のコミュニケーション能力、読み書き能力がどの程度伸びたか、授業にはついていけるようになったか、ストレスはたまっていないかなどを、児童生徒、サポーターそれぞれがチェックしましょう。また、支援を通して見えてきた課題は、学校の連絡窓口となった教員や在籍学級担任、教科担任などに伝え、今後のサポートをお願いするとともに、児童生徒には目標を設定させ、それに向かって努力することの大切さを教えましょう。

ところで、サポーターの皆さんには何か変化がありましたか。この支援を行ったことで、皆さん自身にも今後の目標ができたらいいですね。

(1) 日本語のレベルチェック

16～17頁の日本語レベルチェックリストを使用し、支援前と比較しましょう。16頁のコミュニケーション能力チェックリストは、aが最も高く、fが最も低ですが、児童生徒のレベルは上がりましたか。日常会話に問題なかった子どもたちは、抽象的な発言ができるまで言葉が増えたでしょうか。

また、読み書き能力はどうでしょうか。ひらがなだけでなく、漢字が読めるようになったでしょうか。自分の名前がひらがなやカタカナですらすらと書けるようになったでしょうか。その児童生徒が在籍する学年の漢字はどうでしょうか。17頁の読み書き能力チェックリストで児童生徒、サポーターそれぞれが確認してみましょう。

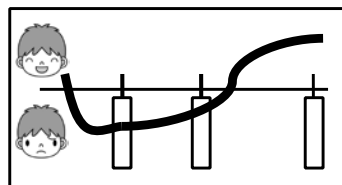
そして、少しでも進歩していたら、ハナマルまたはシールを、あまり進歩していなくてもなんとか支援が続いたら、努力賞としてマルを付け、チェックシートをコピーして児童生徒のノートに貼りましょう。連絡窓口となった教員、在籍学級担任にも、以下のメンタル面のチェック結果と併せて見てもらいながら、今後の児童生徒への支援について話をしておきましょう。

(2) メンタル面のチェック

次のシートを使って、メンタル面の変化を追ってみましょう。サポート終了時に前向きな気持ちになっていればそれでよし、そうでなければ、どのような点に不安があるのか、児童生徒と話をしておきましょう。そしてこのシートをコピーして、児童生徒のノートに貼りましょう。

メンタル面のチェック

① きも きょくせん か 気持ちを曲線で描いてみましょう。



5

学習支援を終えるにゆたって

② うまくできたことを いっしょ かくにん 一緒に確認しましょう。

(3) 今後の目標設定

支援終了後、児童生徒の自律学習を促すために、今後の目標を設定させましょう。できれば1か月先の目標、半年後の目標、卒業後までの目標など、短期・長期の目標を設定させるとよいでしょう。その目標を達成するのにどのような努力をしようと思っているのかも、具体的に書かせるようにしましょう。母語でもかまいません。そして、その目標や達成するための方法について、アドバイスをしてあげましょう。

- 例：【私の1か月後の目標】 漢字を50字覚える。
 【そのための努力】 毎日漢字1字につき10回書いてみる。
 【アドバイス】 「それは素晴らしい目標ですね。でも100字まで覚えることができますよ。」

(4) サポーター自身の成長

10回の活動は、サポーターのあなたにとってどうでしたか。

終了にあたって提出する「子ども日本語学習サポーター活動終了報告書」に、「サポート活動の成果」「今後の活動に活かしたいこと」の欄があるので、この報告書のコピーを取り、自身の活動成果として「ボランティアファイル」を作成し、ファイリングしておきましょう。また、自身の目標も設定してみましよう。今後あなたの支援を受ける児童生徒のためにも、成長し続けるサポーターでありたいものです。

- 例：【今後の目標】 漢字指導のスペシャリストになる。
 【そのための努力】 市販されている漢字教材10冊に目を通し、自分で非漢字圏の児童生徒のための初級教材を作ってみる。

